



農薬の効果を安定させる展着剤についてご紹介!!



営農支援課 TAC  
堀井 崇史

農薬を散布しても植物の葉や害虫に散布液が付着せず、多くが流れ落ちてしまうことがあります。植物や害虫体表上には水を弾く物質があり、散布液は簡単に付着しません。特に付着しづらい作物としてはキャベツやネギ、イネなどがあります。

展着剤は主成分の界面活性剤により、薬液の付着性や浸透性を高め、農薬の効果を一層安定させる働きがあります。

種類	特長	商品名
一般展着剤 (スプレッダー)	散布液の表面張力を下げることで湿展性を改善し、低濃度で濡れにくい作物や病害虫への付着性を改善します。	ネオエステリン ササラ 展着剤 アグラール ハイテンパワー
機能性展着剤 (アジュバント)	スプレッダーに機能性をプラスして、 <u>作物表面から内部へ浸み込ませる機能</u> を併せ持ち、濡れ性に作物体内への浸透移行性を高めて <u>農薬の効果を引き出します</u> 。	ニーズ ミックスパワー スカッシュ アプローチ グッドユキ
固着性展着剤 (スチッカー)	作物に付着した薬液を固着させ、 <u>残効性を持たずとともに、耐雨性を高めます</u> 。	アピオン-B

◇展着剤の使い方【入れる順番】

基本的に混ぜやすいもの(界面活性剤の多いもの)から混ぜます。つまり、界面活性剤が主体の展着剤が一番最初になります。1つの薬剤ならば展着剤のあとに入れるだけでよいですが、2種類の薬剤を混ぜる場合はさらに順番があります。展着剤のあとに乳剤や液剤を入れ、一度よくかき混ぜます。その後、水に混ぜにくい水和剤や水溶剤、フロアブル剤を入れ、再びよくかき混ぜて完了です。



※ 注：展着剤により加用する順番が異なる事があるので、ラベルなどを使用前に確認しましょう。

【展着剤の入れすぎは逆効果】

たくさん展着剤が入ると、特にもともと薬剤が付きやすい植物には、影響が強く見られます。また薬害を引き起こす原因にもなりますので、薬剤ごとの規定量はしっかり守りましょう。

薬剤の付きやすさ	作物
付きにくい	イネ、ムギ、ダイズ、ネギ、キャベツ、サトイモ、アスパラガス
やや付きにくい	トマト、ナス、ジャガイモ、イチゴ、メロン
付きやすい	キュウリ、インゲン、サツマイモ、チャ、トウモロコシ

●LINE 公式アカウント「営農タイムリー」でも旬な営農情報を随時発信中!!

登録はこちらから→

